

令和元年 7月 23日

議員視察報告書

赤穂市議会
議長 釣 昭彦 様

派遣議員氏名	<u>山田 昌弘</u>	<u>印</u>
〃	<u>榊 悠太</u>	<u>印</u>
〃	<u>有田 光一</u>	<u>印</u>
〃	<u>竹内 友江</u>	<u>印</u>
〃	<u>小林 篤二</u>	<u>印</u>
〃	<u>瓢 敏雄</u>	<u>印</u>

下記のとおり、行政視察・講演会等に参加しましたので、報告します。

記

- 1 実施日 令和元年 7月 8日 (月) ～ 7月 10日 (水)
- 2 調査市及び主な調査項目 (詳細については別紙のとおり)
 - (1) 千葉県木更津市 (令和元年7月8日 (月))
 - ① 下水道処理施設のインフラ整備について
 - ② 議会運営全般について
 - (2) 静岡県菊川市 (令和元年7月9日 (火))
 - ① 道路・橋梁長寿命化 (施設のインフラ) について
 - ② 議会運営全般について
 - (3) 愛知県岡崎市 (令和元年7月10日 (水))
 - ① 観光振興施策 (全般) について
 - ② 家康行列他観光イベントの効果的なPR方法について
 - ③ 議会運営全般について

視察地：千葉県木更津市 令和元年7月8日（月）14：00～16：00

【目的】

赤穂市における下水道普及率は94.5%、水洗化率は98.7%と全国的にも非常に高い水準にある。しかしながら、下水処理施設や下水管等の老朽化が進行しており、施設の更新や長寿命化の課題に直面している。今後、下水道事業の低コスト化、効率化を推進し、現在の水準を維持しながら事業の実施、継続を図る必要がある。そこで、木更津市の下水道長寿命化対策事業及び木更津市の包括的民間委託の概要について行政視察を行った。

【視察項目】

- 1 下水道処理施設のインフラ整備について
- 2 議会運営全般について

【説明及び取組内容】

1 木更津市の下水道長寿命化対策事業の概要

木更津市では、施設等における長寿命化を従来の事後保全型ではなく予防保全型の考え方により実施している。問題が発生してから修繕等の対応をするといった事後的な対応では、市民生活に支障が出るだけでなくコスト的にも不経済となる。一方、予防保全型では、予防保全的な管理を計画的に実施することにより、施設の健全性を高い水準で維持し、修繕費用等のコストも削減することができる。

木更津市では、予防保全型の考え方から「下水道長寿命化計画」(H20～H30)を策定しこれを元に下水道の長寿命化を図ってきた。この計画は、下水道施設の健全度に関する点検、調査結果に基づき「長寿命化対策計画」を策定し、予防保全的な管理を行うとともに、長寿命化を含めた計画的な改築等を行うことにより、自己の未然防止及びライフサイクルコスト(LCC)の最小化を図ることを目的としている。策定の背景には、下水道整備の進展に伴い、管路施設の老朽化等に起因した道路陥没が増加し平成18年度では約4400か所に上ったこと等がある。

現在は、ストックマネジメントの観点から下水道の長寿命化計画を策定し下水道の長寿命化を図ることとしている。ストックマネジメントは、長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、施設の点検・調査、修繕・改善を実施し、施設全体を対象とした施設管理を最適化することを目的としている。

長寿命化とストックマネジメントの違いは以下の表のとおり

	長寿命化	ストックマネジメント
対象施設	施設ごと (例：処理場だけ、管渠だけ)	下水道施設全体 (例：処理場、管渠、中継ポンプ場)
計画の内容	特になし	①ストックマネジメント実施の基本方針 ②施設の管理区分の設定 ③改築実施計画（計画期間5年以内） ④ストックマネジメント導入によるコスト削減効果
交付対象	①計画策定費用 ②計画的な改築に要する費用	①計画策定費用 ②計画的な改築に要する費用 ③ストックマネジメント計画に基づく点検・調査費用

2 木更津市の包括的民間委託の概要

木更津市では、民間の創意工夫による事業の効率化、コスト削減、また公共人件費の削減のため、下水道施設において包括的民間委託を実施している。

受託者選定方式は、技術能力重視の公募型プロポーザルにより選定している。公募型プロポーザルは、入札公告に示した参加資格を満たす者のうちで、技術提案を考慮した評価により、決定した受託者との間で随意契約を締結する方法である。性能発注による民間委託（プロポーザル）では、民間企業が運転主体となり、委託業務の範囲は、施設運営に係る業務を一括して包括的に受託することとなる。契約年数は3年。また民間企業の創意工夫が民間企業にとってのメリットにつながるようインセンティブを設定していることから維持管理業務の効率化が期待できる。

【所 感】

- ・木更津市では、長期的な視点で、施設全体の老朽化の進行状況を考慮して、優先順位付けを行った上での、施設全体を対象とした、施設管理を最適化することを目的とした、ストックマネジメント計画を策定中である。特にライフサイクルコストを重視した計画を策定中であり、重要な視点であると感じた。赤穂市においても、現在ストックマネジメント計画を策定中であり、コスト削減を含めた計画策定の参考としたい。

- ・木更津市では、運転監視、整備を含め民間委託を実施している。選定方法は、公募型プロポーザル方式をとっている。公平性の維持はもとより、新たな技術用案等が示される事から、委託業者選定には、大変有効ではないかと考える。特殊な事業における応募業者は限定されると言う課題がある。しかし1社の応募であっても、プレゼンを実施し、評価を行い、選定している。赤穂市においての、委託選定の参考としたい。

- ・公募型プロポーザル方式は、入札公告に示された参加資格を満たす業者の中で技術提案の評価により随意契約を締結する方法であるが、最初に一度契約が交わされれば、余程の事が起こらない限り業者変更をすることは困難ではないと感じる。又専門的な特殊業務だけに業者側にイニシアチブを握られるのではないかと予測される。そのような

事を考えると行政側にも専門知識のある技術職員の配置が必至ではないかと感じる。

- ・区画整理事業の減歩は、その区域内の道路、公園等の公共施設の用地を確保すると同時に工事費を捻出するために減歩率を決めるものと考えられるが、平均40%の減歩率は高いように感じる。計画段階の予測された土地価格の設定と土地価格の下落が進む現状での事業の進捗は非常に困難さを感じさせる。現在、本市においても、三ヶ所で区画整理事業を行なっているが、人口減少、土地価格の下落が続く中での事業の取り組みは、困難さを感じる。

- ・木更津市で、現在進められている金田西、東地区、区画整理事業は、東京湾アクアライン等広域幹線道路網の整備個所である。実施主体が、西地区は千葉県、東地区はUR機構である。一度は事業に行き詰ったが、東京湾アクアラインの通行料金の値下げで、利用客が飛躍的に増え、それに伴い転入者も増加して、再度区画整理事業が実施されている。ライフライン1つで大きく変わることがある。ライフラインの重要性を実感した。

- ・事後保全型よりも予防保全型管理の方が市民生活への支障、コスト面で優位との説明であった。さらに、ストックマネジメント（施設全体）へ移行を進めている。本市計画の進捗状況と比較し検討すべき課題と考える。

- ・公共人件費の縮減を図るイメージの説明があった。H30年11月公募型プロポーザルで業者を選定。3年契約としている。同方式で民間委託を継続すると委託会社の優位独占化が進み、競争原理がはたらかず、更新においても同一業者になる可能性がある。

- ・H9年東京湾アクアライン開通により千葉県の新たな玄関口として拠点市街地（商業・業務・居住等）、特に大規模商業地の受け皿として整備が進められている。H21年通行料金普通車3000円を800円に減額は開発促進のインパクトとなっている。H24年三井アウトレットパーク木更津が開業している。観光客入込数は約2千万人、内買物は900万人だ。規模内容の差を感じた。区画整理の平均40%の減歩率は高いが、都心に比べ廉価な地価で事業が取り組まれているようだ。

- ・木更津市は、包括的民間委託をし、受託した民間事業所が創意工夫やノウハウの活用により効率的・効果的に運営できるように取り組んでいる。創意工夫を引き出すために複数年契約・性能発注方式として、処理場、ユーティリティー・補修の公共発注等人件費の縮減を行っていた。良い参考になる。

- ・木更津市の下水道普及率は54.5%。全国平均が78.8%に対して赤穂市は94.5%である。赤穂市でも老朽化による事案を抑制するための取り組みがさらに必要であると感じた。

・

【説明者】

木更津市 都市整備部 下水道推進課 課長 鈴木陽一

木更津市 都市整備部 市街地整備課 主幹 中村忠男

視察地：静岡県菊川市 令和元年7月9日（火）13：30～15：00

【目的】

全国的に道路・橋梁などの老朽化が課題になると言われており、赤穂市にとっても例外ではない。道路・橋梁等のインフラは、市民にとって必要不可欠なものであり、限られた財源の中で、市民生活に必要なインフラを整備していくためには、長寿命化を前提とした維持管理を推進していく必要がある。そこで、菊川市の道路・橋梁の長寿命化事業について視察を行った。

【視察項目】

- 1 道路・橋梁長寿命化（施設のインフラ）について
- 2 議会運営全般について

【説明及び取組内容】

本委員会より事前に提出した質問に回答する形式で説明が行われた。内容については以下のとおり。

Q1：貴市の橋梁数、市道延長を教えてください。

A1：道路管理者が管理している橋梁数は615橋。道路延長は、平成30年度末時点で1,014km。農道等農林部門が管理している道路や橋梁はこの中にカウントしていない。

Q2：貴市の橋梁の橋長別で、建設後の経過年数を教えてください。

A2：橋長が2m以上を「橋梁定期点検」を対象としているため、菊川市の場合小規模の橋、床版橋やボックス程度の橋長の短い橋が多く正確な建設年次が把握できていない。建設年度が分かっているのが全体の内約3割程度。残りの約7割については、いつ工事していつ完成したか不明。分かっているものの中で最も古いのは昭和元年にできた橋である。

Q3：道路・橋梁の長寿命化の取組みに毎年どの程度の費用がかかっていますか。

A3：以下の表のとおり。

橋梁点検における実施年度ごとの集計

事業費 千円

項目/年度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	総計
点検数	5	1 1 5	3 4 0	9 0	6 5	6 1 5
I 評価	2	3 9	1 7 9	1 4	1 4	2 4 8
II 評価	3	7 4	1 5 3	7 5	4 8	3 5 3
III 評価	0	2	8	1	3	1 4
点検率の推移	0. 8 1%	1 9. 5 1%	7 4. 8 %	8 9. 4 3%	1 0 0%	6 1 5
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1 当初
工事費	0	0	79, 701	155, 057	187, 815	304, 125
委託費	9, 000	57, 610	137, 598	43, 588	78, 120	165, 583
負担金	0	0	0	0	4 0 2	2 4
事務費	0	3 2 5	1, 868	1, 905	1, 938	3, 464
合計	9, 000	57, 935	219, 167	200, 550	268, 275	473, 196

※ I 評価（健全）、II 評価（予防保全）、III 評価（早期に措置必要）

点検については、平成26年から平成30年までの間に市内615橋全てを点検した。早期の措置が必要であると評価されたものについては、14橋であり令和3年度には全て措置が完了する予定となっている。なお点検についてはコンサルタント会社に委託し実施している。

また橋梁の塗料にPCBを使用しているものが20橋あり、これらについては令和9年度までに除去できるよう取り組んでいる。

Q4：上記3の費用は、道路・橋梁等のインフラに係る全体費用の何パーセントほどですか。

A4：平成30年度予算、道路・橋梁費が約7億5千万円の内、長寿命化に係わる工事費・委託費の合計が約3億円となり、約40パーセントとなります。

Q5：施設の規模によっては単年度に多額の費用がかかることもありますが、財政的な平準化について取り組んでおられることがあれば教えてください。

A5：平成30年度末に橋梁615橋について定期点検は完了。本年度「社会資本整備総合交付金事業 橋梁個別施設計画」を策定する。

Q6：橋梁について、重量制限、車両制限、施設廃止をされた事例や、その予定があれば教えてください。

A6：重量制限1橋。施設廃止については、「東海道新幹線」へ架設されている橋につい

て、廃止を検討中。

Q7：上記6の事例があれば、利用者、市民の反応はどうでしたか。

A7：地域の方と話した中では、なぜ橋が必要であるのか過去の経緯等を確認。限られた受益者であるため、利用者が了解すれば廃止。また別ルートからの侵入確保を求められる場合が想定される。

Q8：施設の長寿命化を図るには、適切な点検と点検結果に基づく長寿命化工法の選定、及びLCCの算定など、的確な判断が必要であり、専門的知見のある者が携わる必要があると思われませんが、このことについて貴市ではどのように対応されていますか。

A8：Q9：の質問にも重複する解答。橋梁については、専門的な知識と経験が必要であることは、人事担当部署とも共通認識となっています。当市においては、技術職員の採用はなく一般事務職員が技術に関係する研修や講習を受け技術力の向上を図り対応をしています。

Q9：今後、全国的に道路・橋梁等の老朽インフラは増加するとされています。したがって、財政的にもさることながら、今後益々専門的知見のある者のマンパワーが必要と考えられます。貴市の技術系職員は足りていますか。マンパワーに関してどのように考えておられますか。

Q10：道路・橋梁の長寿命化の取組みについて、他の自治体と異なった取組みや特徴のある取組みがあれば教えてください。

A10：菊川市独自の取組みについてはありません。

【所感】

・老朽化した橋梁の長寿命化を図ることは、どの自治体においても必至の課題である。赤穂市においても、菊川市と同様にH26年度から点検し、補修しながら長寿命化を図っているが技術系職員の不足は否めないのが現状である。菊川市の職員採用は、一般事務職だけの採用で技術系職員の採用はない。技術系職員の居ない自治体で今後、老朽化して行く道路、橋梁等のインフラの適切な整備、維持管理ができるのか、少し疑問に感じる。

・この内、Q8・9 技術系職員の確保について。H17年合併した市であり、橋梁技術職員の採用がなかった。この業務に対応するため、国交省の1週間程度の研修、県職員の派遣、職員の異動により対応しているが大変そう。赤穂市も同様の課題があると思う。県から移管される橋梁の場合は、「健全」を前提とする考えだ。坂越橋など本市も同様の姿勢でのぞむべきと考える。

・橋梁の整備には巨額の予算を伴うので赤穂市でも点検や整備を更に計画的に推進してもらいたい。県の職員との人事交流が盛んであるように感じた。市では技術職の採用がないとか。一般事務職を県へ派遣したり、研修したりして専門的知見に対応しているよ

うだ。改めて技術職職員について考えることがあるように感じた。

・菊川市は技術系職員の採用はしていない。専門知識が必要な橋梁点検等の知識は、一般職員が、技術研修や講習等を積極的に受講し、知識の向上を図っている。県との交流を盛んに実施されており、そのことにより、国、県、の情報把握が確実であり、参考にすべきと考える。

【説明者】

菊川市 建設経済部 建設課 課長 竹内浩巳

菊川市 建設経済部 建設課 柏谷怜

視察地：愛知県岡崎市 令和元年7月10日（水）10：00～11：30

【目的】

赤穂市は、赤穂義士発祥の地として知られている。また平成30年には北前船、令和元年には赤穂の塩が日本遺産に認定され、これらの観光資源を有効に活用し、赤穂市の観光客増加につなげていかなければならない。そこで、岡崎市の観光振興施策について視察を行った。

【視察項目】

- 1 観光振興施策（全般）について
- 2 家康行列他観光イベントの効果的なPR方法について
- 3 議会運営全般について

【説明及び取組内容】

岡崎市は城下町で、岡崎城は日本で4番目に大きい城であった。明治維新の際に取り壊され、その後の空襲により市域の7割が焼けたこともあり、当時のまま残っているものは少ない。

岡崎市には、徳川家康ゆかりの寺社仏閣がある。江戸幕府の1代目から14代目の将軍の位牌がある大樹寺、徳川家康が戦の前に先勝祈願をしたと言われる伊賀八幡宮、徳川家康の生まれの神を祀っている六所神社、3代将軍家光が家康を祀った瀧山東照宮等。また特産品として、徳川家康が食したと言われる八丁味噌がある。八丁味噌の名前の由来は、岡崎城から八丁の距離がある場所で作っていたことからきている。

岡崎市では季節ごとに観光イベントを開催している。春には、桜まつり、家康行列、藤まつり、将棋まつり等。夏には、岡崎城下家康公夏まつり、花火大会。秋には、岡崎城下家康公秋まつり等。冬には、岡崎エイヤスコウイルミネーション、家康公生誕祭がある。桜まつりの夜桜照明では、風情を損なわないためあえてLEDではなく白熱電球を使用している。家康行列は、市民参加により行列等を構成し実施されている。平成28年度からは、有名な俳優や女優を招き、行列に参加してもらうことで観光客の誘客を図っている。また俳優や女優を行列に起用した際は、その参加のみに留めず、民間企業の店舗などでトークショーを開催し、行列以外のイベントにも活用することで更なる誘客を図っている。民間企業との連携・活用は、企業側にも客の増加などのメリットがあるため会場費などが無料となっている。

将棋まつりでは、将棋女子をターゲットとしたディナーショーを開催したところ一席8,000円の席が100席あったが30分で完売となった。

家康公夏まつりについては、市は補助金を出すのみで出し物等については全て市民が行っている。

花火大会については、1億9千万の経費をかけている。打ち上げ発数は約2万発。企業の協賛を募り、仕掛け花火も使われている。また間近で見ることができることから県下でも有名な花火と言われている。一席89,000円、49,000円の栈敷1,400席を用意しているが今年度分は既に完売している。

今までの観光は、旅行会社が作ったツアーを利用した、団体での観光客が多かった。しかしながら現在は、観光の形が変化しており、団体の観光客より個人の観光客をどのように捕まえるかが重要であると考えている。外国人観光客もその多くが個人客である。個人の観光客を獲得するためには、岡崎市をしっかりと発信していくことが大切である。

そこで岡崎市では、発信力の高い岡崎市出身のユーチューバーを岡崎観光伝道師に任命し、岡崎市の認知度向上を図っている。彼らのユーチューブチャンネルで岡崎市をとりあげてもらうことで、岡崎市が多くの人目に触れ、認知されるきっかけとなっている。また多くのファンなどが訪れる等の効果もある。人気のある人、グループ等を通して岡崎市をとにかく知ってもらうことがまずは重要であると考えており、他にも岡崎市出身のバンドや俳優を観光伝道師に任命している。これらの観光伝道師に企業を絡め、協賛してもらうことにより、より効果的に岡崎市を発信していきたいと考えている。

観光客のターゲットとしては、経済効果が大きいことから若い人、特に女性をターゲットとしている。

観光ポスターには、岡崎市出身のイラストレーター内藤ルネの女性キャラクターを起用している。女性の興味を引きやすいようなデザインのポスターとなっている。

岡崎市では、観光を3次産業の一部と考えていない。すべての産業を下支えし活性化させるのが観光産業であり、観光という手段を使って地域の問題を解決するのが観光施策であると位置づけている。

【所 感】

- ・岡崎市は、徳川家康公の生誕地、三河八丁味噌の産地として知られている。市の観光振興については家康公ゆかりの寺社仏閣の歴史遺産を活用した観光と八丁味噌が観光の目玉である。これは赤穂義士発祥の地として歴史遺産を活用した観光、日本有数の塩の産地を目玉として観光振興に努めている赤穂市と類似している。しかしながら大体的にユーチューバーを活用した観光振興を図る手段は赤穂市には未だない。一度検討して見る価値はあるように感じる。

- ・家康生誕の地として歴史的遺産を観光資源とするところから共通性を感じていたが、違っていた。ターゲットを従来の団体誘致から個人誘致（特に女子）に変え、まず知ってもらう「きっかけ作り」を大事に、メディアが取り上げるユニークなPRやイベントを実施していた。大変参考になった。

- ・チャンネル登録者数459万人、動画再生回数41億8900万回のユーチューバー等を観光伝道師に任命し、Facebook・LINE等のSNSを駆使する取り組みには驚きました。赤穂市も学んでいかねばなりません。

- ・岡崎市は徳川家康公の生誕地。四季とともに家康公ゆかりのイベントを行っている。また岡崎には家康公から14代の家茂公まで歴代将軍の位牌が祀られている。静岡市に徳川家に移っても岡崎市の観光の中心には家康公がいることを感じた。

- ・まずは、岡崎市を知ってもらうことを最優先に観光事業を進めている。その為にSNSを活用している。特にユーチューバーを観光伝道師（赤穂市では観光大使）として任命し、全世界に岡崎市を知ってもらう取組みは、非常に参考になる。赤穂市においても、調査研究する必要がある。観光に懸ける意欲が非常に感じられる。観光産業は、全ての産業を下支えするものとして捉え活動されており、非常に参考になる取組であると感じた。

・家康行列他観光イベントは、コンサル、プロモーション等を使わず、自分たちで出演者の決定、交渉まで実施されており、非常に感心させられた。また、多くの観光イベントは、市が主導するのではなく、あくまで市民に主体的に計画・実施まで実施している。その仕掛けを市の観光課が行っている。観光課職員も14名と非常に充実されているが、人員だけでなく、観光に懸ける職員の熱意を感じる。赤穂市における観光事業を再度検討すべきであると感じた。

【説明者】

岡崎市 経済振興部 観光推進課 高橋広